

第16回市民ふれあいトーク—地域力を活かすまちづくり—

日時 平成22年8月26日 18:30~20:00

場所 多津美公民館

要約版

《市長》

みなさん、こんばんは。今日は夕方のご飯時でみなさまそれぞれ大変お忙しい中をこの多津美公民館でのふれあいトークに駆けつけてくださりまして誠にありがとうございます。前の方には倉敷観光キャラバン隊のみなさんが座っていらっしゃるで大変頼もしい限りでございます。今年度から各公民館におじゃまをいたしまして、各地区でのお話を伺ったり、その地区に対して私が思うことなどをお話をしたりとお話を進めさせていただいております。最初に少し私の方から当地区に対する思いとか倉敷市全般のことで今課題になっていることとお話しして、みなさまの方からこういうことはどんなのかなとか、こういう思いを持っているとかお話を伺えればと思っていますのでよろしくお願い致します。

まず、なんといいましても全国中学校の体育大会で多津美中が全国の野球の8強に。全国で8番以内に入ったというのは倉敷市内の学校の大変大きなニュースであります。先日私も開会式に行かせて頂き、一回戦で最初に点が入る所まで一緒に応援させてもらったんですけど、すごい野球が非常に盛んな倉敷市ならではの素晴らしい活躍だったと思います。

ここ多津美中学校区の中では帯江小学校と天城小学校という本当に素晴らしい小学校が2つございます。また地区としては源平の合戦の頃から非常に有名な藤戸の地区を始め、羽島の貝塚等本当に昔からの地区があって、倉敷市の中でも非常に住みやすい地域ではないかと思っています。ただもちろんいろいろ課題もあると思いますので、今日はみなさまからお話を教えていただきたいと思っていますが、私としましてはみなさんが非常によくまとまっていらっしゃる地域の活動を行っていらっしゃるイメージを持っています。今日はぜひ活動の発表などをしていただければ大変ありがたいと思っています。

今、円高になって景気がどうなるのかとか、株が8千円台になって経営がどうなるかと非常に心配しているわけですが、倉敷市全般としてはこの景気の波の中でももちろん苦しいわけですが、その中でもなんとか少しずつ上向きになってきているのではないかという思いを持っています。もちろんまだまだ東京とか大阪に比べると景気の回復は非常に遅いわけですが、全般としては少しずつではありますが、上向きの方になってきているのではないのでしょうか。

また観光の面では観光客数も先月発表がありましたが、岡山県全体で言えば、蒜山高原とかB級グルメをやっていらっしゃる地域では非常に観光客が増えているのですが、倉敷市としてはチボリ公園の減りを除けば横ばいくらいではなかろうかと思っています。今日はキャラバン隊の皆さんがいらっしゃいますけど、頑張っていかなければいけないなと思います。

そのチボリ公園の跡でございますけど、多分来年のクリスマスよりは前になると思いますけども、駅北の駅前にイトーヨーカドーさん、それから三井不動産さんが開発をされます大きな商業施設ができます。だいたい大きさとしてはイオンの半分よりはもうちょっと大きいくらいの大きさになると思います。その所には中国四国地方からかなり多くの方が来られるようになると思っています。倉敷市としてはその駅の北にたくさん来られるお客さんを、ぜひ南の大原美術館を始めとする地域、それから児島のジープの町であるとか、

玉島の茶道を経験してもらったり、藤戸のおまんじゅうを買いに来てもらったりとかなればいいなど、そういう連携をしていきたいと思っているのが現状です。

今、各学校の耐震化工事を急ピッチで進めており、昨年度が天城小学校、今ちょうど帯江小学校の工事をしております。一つにはもちろん子どもさんの安全ということが一番にあります。それから地域のみなさん方の避難場所になるというのが大変大きなことです。それから倉敷市が耐震の工事をなるべく前倒しにして一生懸命やっていきたい一つには景気の面のことがございます。市のみなさまからお預かりしております税金をなるべく有効な時期に有効な所に使いたいと思っています。もちろん耐震化工事を年次計画でやっていけばいつかは耐震工事をするようになるんですけど、やはり今の時期は非常に民間の工事や経済の動きが少ないということになっていますので、そこをできれば必要な工事、必要な道路や橋の改修とかそういう所に景気の厳しい時に仕事をお願いして少しでも景気の底支えをしていきたいというのが倉敷市の考え方です。特に今年度は岡山県内でも市によって予算の組み方が随分変わっています。お隣の総社市は、今年は予算が厳しいということで公共事業が随分縮小されています。岡山市はだいたい前年並みか、ちょっと多くされていますけど、倉敷市はやっぱり水島コンビナートの景気の上下がありますので、今年なんとか頑張らないといけないということで、過去で一番大きな予算を組ませていただいています。今年頑張って必要なものはお願いして、景気がよくなってきたら市の方はもっと別の分野にお金を割くことができるんじゃないかという思いでやっている所です。全般としてはそういう状況になっております。

各地区の中で、例えば児島地区、今ファッションのジーンズストリートということで味野商店街ではジーンズのショップがお店を独自に出してこの通りにジーンズのお店を集中してお客さんを連れてこようということをされています。東京から一本何万円もするジーンズを買いに来られたりするというような状況になっているというのが児島地区です。また、真備地区では昨年横溝正史の金田一耕助に焦点をあてた観光開発をして、PRを一生懸命しています。真備の地で横溝正史さんが疎開中に金田一耕助を生み出したということで、それをミステリー小説の非常に好きな方達に発信をしていたら、全国から今までに何百人もの方がわざわざその地を見に来てくださったりということになっていますので、私はこの多津美学区では一番古いのはもちろん源平合戦の藤戸のことで、きっとみなさんよくご存知だと思いますけど、そのような歴史をもっと他の地域の人たちに知ってもらって来てもらえるようできたらいいと思います。

市の行政として今非常に思っていますのは、地域のみなさんたちがこの健康長寿社会に元気で健康で長生きをしていただけること、それから子どもさんがいかに元気に育っていただけるかということに非常に注目をしております。地域での活動でも子どもさんと一緒におじいちゃん、おばあちゃん、地域の方が活動をしてくださったり、公民館を始めとする市のいろいろな講座とかでもこれから健康とかまちづくり、環境の方にもっともっと焦点を当てていく必要があるかと思っています。そのような地域活動につきましてもぜひ今日みなさまからご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

それでは今日は「地域力を活かすまちづくり」ということですが、この学区のことも、倉敷市全体のこともいいですし、自分の所はこういう活動をやっていて非常にいいということをお話いただければ倉敷市の全体の行政の方にも反映させていただきたいと思っております。

《参加者Aさん》

僕も市長さんが言われたように自然環境や芸術とかスポーツなどにものすごく関心があるんです。先日市役所の本庁の前の市民活動センターへ行かせてもらったんですが、野鳥の会というのがあって、僕も入ってまだ新米で半年くらいなんですけど、その会長さんに誘いを受けて入ったんですが、私みたいに鳥の名前をぜんぜん知らない人でもそういう所へ行けば先輩がいろいろ名前を教えて下さるし、自分の全く経験がないことでも非常に勉強になると思いました。孫が、佐藤忠良さんをやっておられる美術館に連れて行って欲しいというので行ったんですけど、ものすごい子どもが関心を示しているんです。同じような若いお母さん方が連れてきてるんですけど、佐藤忠良展、すごいですね。アンケートもみな書くんです。夏休みもあとわずかですけど、子どものためにも非常に勉強になるし、若いお父さんお母さんだけでなく、私らみたいにおじいちゃん、おばあちゃんもちょっとでも勉強になるかなと思いました。今日たまたま3日間子どもが合宿をやっていたんです。どういうことをやっていたかというところ6時から座禅を組んでお寺さんを掃除して座禅をくんで。誰がやっているかというところ、学校の先生と市民ボランティアの人がやっているというところ聞いてわれわれもできるお金がかかることでもないし、みなさん感心がある人がおられたら地域のためにぜひやっていただきたい。以上です。

《市長》

今日は公民館の講座の責任者が来ておりますけれども、公民館の講座ももちろん変わっていかないといけないと思うんですが、市民のみなさんの活動もどんどん広がって行く地域の活動であったり、野鳥の会、趣味の会だとか、そういう活動が広がってほしい。そしてそれを発表していただくような機会が増えてそれを見てまた他の人達が入って行って、関心があるからやってみようかとか、そういう風になって退職された後にみなさんが興味を持ったり、地域で活動して下さることをぜひとも倉敷市としては押し進めていきたいといえますかお願いしたいというのが市の活性化の源になると思っています。大変貴重なご意見ありがとうございました。

《参加者Bさん》

今日は、婦人会、交通安全母の会、栄養改善、栄養士さん来てます。それから愛育委員さん、消費さん、五つの柱でいろんなことをしておりますが、健康運動、それから着付け等をこの中でしております。また、ミニ健康展を一年に一回始めました。10月3日のふれあい大会は地域で全体でしますけれど、体育館の中では女性が頑張っていて輝いております。今年は、いろんな交通の出前講座も組み込んでしました。

市長さんが今言われたように、私も駅前周辺について非常に思っておりますことは、三越さんが出られたら天満屋さんを入れてくれたり、いろいろと発展したことにつきましては伊東市長さん、ありがとうございました。

市長さんとお話をして地域の観光の方が細々になるんじゃないかと心配して私たちは100人ほどの会員で、倉敷物語館で、月に2回着付け教室、お茶たて体験、踊りの体験、そして韓国、中国から21人も来られたときもありまして、国際課から来られるときは全部入っております。そして今年は趣向を変えまして、そのものは月一回にしまして、30

人くらい着物を着て、キャラバン隊をかけてよその市町村に行ってチラシを配ってどうぞ倉敷に来てくださいと宣伝もしております。流動的に倉敷が少しでもよくなることを、私達女性が何かすることはないかと考えましてこういうことに力を入れております。みなさんよろしくお願い致します。

《市長》

女性のみなさんの力で大変心強い限りです。ニュージーランドの姉妹都市の方にも一緒に行ってくださいと発表もして下さったり、全国、世界にも広めていただいて大変ありがたいことだと思います。

天城学区の女性のみなさん、婦人会を始め、愛育、栄養、交通安全母の会、消費生活学級等、本当に地域での活動の推進力となって頑張ってくださいと素晴らしいと思っております。今後ともそのパワーを今以上に発揮しお願いしたいと思っております。

《参加者Cさん》

どこの公民館とは言いませんが、ある公民館の趣味の会に行ってるんですけど、年度が変わり新しく入って来られた方がいたので、名簿を新しく作らないといけないということで、先生が新しい住所を聞いてくると事務所の方にかかれたんです。すると先生がカンカンに怒って帰って来られまして、名簿をくれないんだと。プライバシーの問題で。確かにそれはプライバシーの問題は重要な問題かも知れませんが、名簿を作って市民の人達が何かに使おうとか他意があるわけがないんです。もしそういうことを上から指示なり指導なりをしておられるのなら、もう少し臨機応変に現場にらせていただければいいという気がしました。

関連しまして、帯江学区で安全推進委員で子ども達の安全パトロールをやっているんですが、地域の子どもたちが元気に学校に来てほしいと。われわれパトロールはやっても月に2回くらいしかやりません。四六時中というわけにはいきませんので、老人会の方にしよっちゅうお願いするんですが、24時間家におられるんですね、高齢者の方が。それは強みなんです。子どもたちが学校に行く時、帰る時に買い物に出たり外に庭に水をやるなり、子どもたちを見守ってくださいねと。ぜひやってくださいとお願いをしているんです。それをもっと広めることができたらいいいと思っているんですけど具体的な方法が分かりません。

それともう一つ、お願いをしますが、今、高齢者のグランドゴルフが非常に盛んなんですね。市長杯なんかやりますと800人くらい参加者がいるんです。残念ながら倉敷には専用のグラウンドがないんです。これをなんとかしてほしいなど。どこでもいいんですが、倉敷川の河川敷でもいいですけど。維持管理はわれわれもボランティアでできると思いますので、ぜひ考えていただけたらありがたいと思います。以上です。

《市長》

最初に公民館講座の名簿の件なんですけど、どの講座かは分らないんですけど、市の方の全般的な考え方は、非常に難しいことなんですけど、市の方が他の人の情報を他の人にどんどん出してはいけませんというお話が来ているんです。その講座の先生がお冠？なんですよ。講座の中でも自分は住所を出してもいい人と、あんまり初対面だから出したく

ない人がいると思うので、市の公民館講座を担当しているものが全員こうですと全員に配るのは難しいとは思いますが、例えば、講座の中で先生とかの方からみんなで年賀状のやり取りをしたいので、もし住所を書いていい人がいたら、住所を交換しませんかと言ってくださればうまくいったんじゃないかなと思ったんです。市の方で全員の名簿を出すことについては地域の民生委員さんとか児童委員さんの方でも、やはり課題になってるんですが、個人の情報を公にできるというのは、緊急的な災害の場合とかに限るという国の方で法律ができて、前みたいにやりにくい状況になっているんです。状況としてはそういうことですので、機会がありましたら講座の先生の方にもこういう言い方ではどうでしょうかと言っただけとありがたいと思います。

交通安全のこと、子ども達の見守りのことについては大変重要なことを言ってくださったと本当に思います。今交通安全の推進員さん、交通安全母の会のみなさんがいつも立ってくださっているんですが、今言うてくださったように、いつも家に居ますとか、時間があったら家の前に出て子どもたちに声を掛けてくださるとか、そのひとつひとつの積み重ねが子どもの行き帰りの安全とか子どもの社会性というか、他の人とのしゃべれるようになるとか道であったら挨拶をしましょうとかに繋がってくると思うんです。それでももちろん市の方から学校の方をお願いをしてそういうことを取り入れたらどうかということもできるのですが、一方で地域地域でのやり方もあると思います。もしよかったら地域の交通安全の取り組みとして、地域の子どもの登下校の時に家に居ることが多い方にはチラシとかを配っていただいて道に出て子どもに声掛けをしてもらえませんかとか、そういう活動をしていただけると大変ありがたいと思います。私も非常にこのテーマは重要なことだと今のお話を聞いてより思いました。

それからグランドゴルフ場の件ですけど、やはり市民ふれあいトークに行きましてお話しを伺うと、こういうものを作ってもらいたいというのが多いのがグランドゴルフ場のことでしょうか、大変多くなっているなど実感します。今すぐにどこの地に作れるということとは言えないですけど、いい場所がないかとか作るとしたらどういう風にできるかとか検討をしているんですが、今まだできますと言える状況ではないんですが、みなさんからいただく声を参考にさせていただきながら市議会のみなさんにご相談をしてやっていきたいと思っています。

《参加者Dさん》

今と関連なんですけどグランドゴルフの場所を、以前、倉敷川の桜並木付近の空き地に計画があるとちょっと聞いたんですけど、今、候補と言われたのは違うんですか。

《市長》

まだ候補地がどこかは決まっていないんです。ただ、今Dさんが言われたように、そこらも検討してはどうかという声をいただいているのも事実です。他の地域でももちろんグランドゴルフしていただいている方は市内だけでなく県内でもどこでも行ってくださるんですけど、倉敷市内全般の中で検討していきたいと思っているので、そこが候補で具体的にというところまでになっていないのが現状です。

《参加者Eさん》

先ほど市長さんがお話されました有名な藤戸合戦で、鞭をたてていずれ大木になったといわれている粒江小学校区の東のところ。その地域はもともとは多津美中学校区と一緒に地域になっていたんですが、私もそこへも当時この公民館にたびたび来させていただいたことがあるんです。

私が今日お願いするのはその鞭の木を立てた地域、粒江小学校からだいたい東の地域が高梁川の恩恵を受ける地域にはなっておるんですが、どういうわけかその水が来ていない。今も公民館の所を歩いていたら、帯江地区は水はどっと用水路を流れている。非常に見てもいい地域だなあと。それが、鞭を立てた地域は水がよどんで、おそらく子どもに図画でも描かせたらどういう色を描くだろうかというのが現状であります。ぜひそこへ高梁川用水を粒江地区に引っ張れるようにという思いで今日来させていただきました。

それに合わせて、観光キャンペーンの人がおられますが、倉敷の美観地区の方にも水の流れを作り、水の流れを見に行くようにしていただいたら、昨日も今日も美観地区に行ってきたら、水がよどんでじっとしている。腐ったような色をしていて、それではせっかくの観光客が来られてもイメージは落ちてしまうのでそういうことをお願いしたい。

もう一つは、個人的には建設業者でございまして、先ほど市長が倉敷市が始まって以来の大型工事を発注されていると言われましたが、現状が倉敷市内の業者はあまり恩恵を被っていない。市外の業者が受注したらどうなるかと言うと、その下請けとか資材の調達も倉敷市外の方からどうしても来ることが多い。だからどうしても倉敷市内の建設関連のいろんなものを販売している関連の商店はみんな苦しいのです。済んだことを言ってもどうしようもないので、これから発注される工事は、すべて主たる営業所が倉敷市にある業者であるということを一項目だけ書いていただければ倉敷市の方も元気付くのではないかと思います。

《市長》

まず建設業の関係の方からお話を申し上げたいのですが、もちろん市の方としてもみなさんからお預かりしているお金なので、なるべく市内の事業者の方をお願いできればという思いでやってやっております。ただ、工事の大きさによって大きな全国レベルの業者の方もしくは県内県外の方と一緒にやっていただかないといけないようなものなど倉敷市の中の業者の方だけということはないのが現状です。ただおっしゃるように市外の方がとられたときに下請けの工事をされるのに、市内の業者の方を使ってくださいとお願いをするんですけど、そのあたりをもっと厳しく、市外の方が請ける場合には下請けの工事とかは市内の事業所なり、市内の従業員さんを雇っている所に出してくださいとかより強く言うようにしたいと思っています。貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

《参加者Eさん》

主たる営業所が倉敷市にということは。

《市長》

検討するように契約課の方に言いますので。

とにかく思いとしては市内の事業者の方をお願いしたいと思います。私は非常に思った

のは、3年位前だったと思うんですが、景気が悪くなってきている時に兎島の方の事業者の方と話をすることがあって、自分の所は足袋の製品を作っているんだけど、仕事が急激になくなってきて大変だという話をされました。それはなぜかという、建設現場の工事が少なくなってきていて、そうすると土木さんなどが足袋とかニッカポッカなどを買わないからその頻度が少なくなって、それは自分の所にも来て仕事が減って会社が非常に厳しいんだと聞きました。それは本当に一端ではありますけれども、私は要るものはやっぱり必要なときをお願いするべきだと思うんですけど、それは大変な時に下取りとか、器具とか物を作っている所に仕事がいけばいいなという思いでやっているんですがEさんが言われるように100%そうならないかもしれませんが、引き続きしっかり頑張りたいと思っています。

《参加者Eさん》

鳥取県、島根県、それから山口県の方も、鳥取、島根はものすごく規制をして県外のものを入れないようにしているんですが、そうしていただいたら我々のようにならないと思います。

《市長》

よく研究させていただきたいと思います。

それから水のことでございます。大変大きな問題というか、課題で水の利益の権利「水利権」という、ご存知だと思いますが非常に大きな権利がありまして、まずわれわれが高梁川からどれだけ水をとれるかというのを一生懸命国と交渉します。そのなかから、各用水組合の方がどこからどこまで水をこれだけ流していいですよという契約をしまして、その中で確かに粒江の地区が今一番端の方といいますか、過去からの歴史で難しいんですけど、直接に高梁川の水の権利を受ける地域ではなくて、上流から流れてきて水が少なくなった地域に該当しているというのが一番の課題だと思っているんです。国土交通省の方には毎回もうちょっと水をとらせてくれという話はしているんですが、なかなかそうもいかない現状になっています。おおもとが沢山もらえればもっと川下の方に向かって水を供給できると思うんですが、これからも高梁川の水量がもっと安定して豊かになればそういう機会もやってくるんじゃないかなと思いますので、引き続き言っていこうと思っていますが、なかなかすぐにできるかというとなんともいえないのが率直な所です。非常に煮えきらない答えで申し訳ないんですが。

《参加者Fさん》

三点質問させていただきたいと思います。第一はある経済のことで講演会に行った時に言われたことなんですが、各市町村は外国からお金を借りたら金利が非常に安く借れると。だけど、中国銀行とかいろいろ銀行から借ると金利が高いと言われたんです。銀行さんへ聞いたら県や市などの人はそういうことは分かってないと。ものすごく利益が上がるんだけど、外国から金利が安いのを借りるなど、そんなことを考える市の人は居ないだろうと言われたんだけど、そういうこともひとつ考えていただきたい。

もう一つ、小さいことなんですが、倉敷の美観地区を観光していたら、アイスクリームを売ったり針金巻いたりしている方が色々おられるんですが、その人が観光客に向かって

暴言を吐いていることが度々あるんです。倉敷市としても考えないといけないと思います。コンベンションビューロの人にも、言ってみたのですが見てみぬふりをする。それに非常に悪い気がしている人もいます。

倉敷の駅の上が三層ほどなくなると、あれはどういうことかなど。非常に工事にお金がかかるんだから、やるべきかということです。以上です。

《市長》

非常に重要なことを言うていただきました。まず倉敷駅のことからお話をしたいんですが、今年の年末までに倉敷駅のホームの上の階つまりホテルの部分の上の階をJRが辞めるといふ報告が今年の春にありました。市の方としても驚いたんですけど、まずJRの岡山支社長さんにすぐ来てもらいまして、理由とかを聞きました。それで今の状況だったらしょうがないと思ったのですが、言われた理由は倉敷駅の3階から上のホテルの部分とかお店の入っている所について、JRとして改修や耐震工事をすれば何十年も持ちますのでそれでいくべきか、それとも今の所は一番最小の経費でももちろん取壊すお金がかかるんですが、一番最小の低空飛行というか、中空非行くらいで行っておいて、それから後のことに備えるかどっちかの考えだと言われたんです。まず一つ目の駅ビルを新しく改装をして耐震をして、後20年持つようにしたら、どうなるかということをJRとしては考えました。JRとしても倉敷駅周辺で非常に大切だと思っているのは、岡山駅と比べたときに倉敷駅は高架ができていないので、駅の南北の通行、交通の便が非常に良くないと思っています。JRとしても岡山県と倉敷市と国と一緒に鉄道高架をやりたいけど、もしやると今この場で頑丈な駅ビルをもう一回作ってしまったら少なくとも20年は、このビルを取り壊して鉄道高架をしますという方向にJRとして進めなくなります。かたや今この最小の分でしばらく行っておいて（高架に備える）、国と岡山県と倉敷市とJRでお金を出すわけですけども、国はお金を出してくれると10年前から言うてくれています。倉敷市も苦しいですが、分割払いをして必ず払いますと国に言っています。JRも高架をしたいと言っています。岡山県が今の所お金が無いから、すぐやるということと言えないという、知事に会うたびにお願いしているんですけど、平成23年度までの期間で検討してそれをやりますというのは難しいと会うたびに言われるんですけど、この2つをJRが比較をして言われるのは今は大変申し訳ないんですけど、先の鉄道高架のことを睨めば中空、低空飛行で行きましようとなったのがあの時の話でした。それを聞きまして、倉敷駅は顔ですから、非常に心配したわけですけどそういう理由だったら今の所はしょうがないのかなど、一応納得をしまして聞かれた場合にみなさんに申し上げているのですが、そのまま駅がなくなることはないですし、3階建てになっても倉敷の駅にふさわしい姿にするようお願いをしているのが現状でございます。

それから経済の面と美観地区のお話ですが、全国の中でも外資系の銀行とか外資系の証券会社からお金を借りている県や市もあります。倉敷市はまだそれはしておりません。なぜかといいますと、なかなか外資系の分というのは100%補償してくれないものが非常に多いからです。今の所倉敷市の公金は減っては困りますので、国債とか地方債とか、政府の補償が付いているものとかにしか投資をしていません。必ずそれ以上のものが返ってくるように投資をしています。買った時には為替が120円だったけど、換金するときには80円だったら困りますので、そういうことがないように、それから外国の証券に入っ

ていて、もし会社が倒れたときにこっちに影響が来ないようにそういう所が確認できれば利率が高いものを買いたいと思うんですが、今の所はなかなかリスクがあるものに投資ができてないのが・・・。

《参加者Fさん》

投資じゃない。借り入れです。逆なんです。借りて払った方が金利が安くなるという・・・逆に運用益がでてくる。

《市長》

分かりました。借りる方は今借りる時には入札をして借りているのと、なんと言っても岡山県の経済は中国銀行で持っている部分が非常に多いと思っていますので、倉敷市も中国銀行にお金を預けてそして借りているところがありますので、その所でお願いをしている所であります。入札をしている中で中国銀行でない銀行や証券会社から国債の運用などを借りたりすることがあるわけですが、少しずつでも有利なようにやっていきたいと思いません。

《参加者Fさん》

銀行が言うには市や県は中銀にべったりだと。よく考えていただきたい。

《市長》

それから美観地区のことは、本当にそういうことがあるかどうかを聞いてみたいと思います。より気をつけるようにします。

《参加者Gさん》

話題を少し変えます。倉敷市の広報くらしきの表紙をはぐったら8月の場合は国民文化祭と書いてます。受付でもらったティッシュペーパーも国民文化祭と。国民文化祭に関心のない方もいらっしゃるかと思いますが、今年は岡山県で国民文化祭をやっています。国民文化祭は来年は京都ですということで、今年限り。秋になりましたら、岡山県展というのが9月の初めから始まります。それ以外で勤労者美術展というものもあります。私がお願いしたい話題としまして、今年は戦後65年といいます。65年という随分長い年数が経ったことになりましたけど、終戦後間なしにそういうことに力を入れて始まった勤労者美術展は今年で60回を迎えます。60回を迎えるのを機会に今年で最後になります。来年からありません。それから岡山県展は今年が61回目になります。これは山陽新聞が力を入れている関係で継続されると思います。先ほど言いました、勤労者美術展。これは勤労者とは言いましても年配の人も入っています。勤労者美術展は岡山県の労働政策課が主催でやっております。県展は今年も来年も続いてあると思いますが、勤労者美術展はこの60回を機にやめることになります。似たようなことで岡山市におきましては岡山市勤労者美術展があります。少し話は違いますが、書道については倉敷市の書道展が毎年春にあります。今年が40回記念ということで書道展は毎年続けています。そういうことで岡山県勤労者美術展は今年でなくなります。岡山市ではやっておりますから、継続を、そういうファンもいらっしゃると思いますので、倉敷市としても岡山市と同様に倉敷市勤労者美術展を

考えていただけたらと思います。

《市長》

まず岡山県の方に60回で止められる理由を聞いてみたいと思います。やっぱり県の方としての何か理由があるのかもしれませんが、勤労者という区分でされているという何か理由があるかも知れませんが。国民文化祭は10月30日から11月7日まで倉敷市でも九つ担当しておりますので、みなさんぜひ国民文化祭の旗を見られましたらですね、何かお願いしたいと思います。

《参加者Hさん》

小さな要望で申し訳ないんですけど、藤戸サービスコーナーの二階を借りてさせていただいて、栄養のお世話をさせていただいているんですが、場所が狭いのと駐車場がないんです。やっぱり若い人は車に乗って来られたりするので困ってるんですけど、天城いこいの家なら隣のグラウンドが使えて、車を置けるんですけど、天城のいこいの家がちょっと古すぎて設備があんまりないんです。よその公民館を見てみるとかなりいい設備をされてますけど、いこいの家をもっと充実していただき利用できるようになったらありがたいなと思っています。よろしくをお願いします。

《市長》

一度拝見しにあげたいと思います。かなり古いわけですね。

《参加者Bさん》

できてから35年です。私は茶屋町の栄養の副会長をしております、その時に車の置き場が全然ないんです。ひやひやししながらみんな置いているんです。人の土地にも置いています。こういう状態でこれ以上はいけないし、家が建ってもう置けない状態になっています。私はいこいの家を全部まわっております。茶屋町や玉島や児島も、古い所には改修はぜんぜん入っておりません。土地はあるんです。なんとか考えてやってください。よろしくをお願いします。

《市長》

また拝見しに行きたいと思っているんですけど、私が今考えているのは、これまでの倉敷市の公共施設の中で今Bさんがおっしゃったんですが、35年前といえばちょうど倉敷市のコンビナートの景気に湧いて、お金は非常にあるころだったので、かなり施設をいっぱい作ってきた時期だと思います。それが今ちょうど35年経ちまして、もちろん地区地区によっても作りも違うので、古くなり方も違うんですが、今、改修をしているものはだいたい40年を超えるか40年近いくらいになってやっとなんかという状況なんです。改修を耐用年数までやってするよりも、今からは維持・補修といいますか、建替えよりも改修をしてなるべく長く持つてかつ快適に少しでも使ってもらえるようにしないといけないと思っています。これまでの市の考え方はどっちかというと新しいものを地区から要望があったら作りましょうとなっていたんですが、それでは今追いつかない状況なんです。なので今あるものを改修ましょうとか、少しでも伸ばせるように耐震工事をましょうとか全

部やるとなると、四十何年も待たないといけないので、それではいけないので、私は今から維持・改修の方にお金をもっと市の予算の中でも比重をつけていきたいなと思っています。ですので、なるべく新しい施設をどんどん作るのではなくて、建替えの時にはいくつか施設と一緒に合築して、全体の効率もよくなるし、維持費も少なくて済むとかそういうのをやらないといけないと検討をしている所です。活動もまた教えてください。

《参加者Jさん》

西田は忘れられやすい地域なんです。議員さんもいらっしゃいませんし。とにかく年寄りの住みやすいようにして下さるようお願いいたします。それから、チボリのことをよくおっしゃるんですけど、私もチボリ跡がどうなるんだろう、天満屋はどうなるんだろう、駅前はどうなるんだろうと、その点をよろしくお願いします。

《市長》

「子育てするなら倉敷で」というのを大きな市の柱にしているんですけど、あんまり子育てばかり言っているとわれわれ老人はどうなるんだとよく言われるので、私どもの先輩方の世代のみなさまが元気に活躍をし、健康で長生きしていただきたいと思っています。市の事情を言いますと、みなさんが健康でいて下されば、国民健康保険もいらなくて値上げもしなくても済みますし、医療費も少なくて済むと思っています。そうすると市の財政も健全になりますので、なるべくこの良い循環になるようにしたいと思って頑張っております。年配の先輩方が住みやすいまちという視点でしっかりと考えて参りたいと思います。イオンも天満屋さんも、そして駅の南の方にも人が行ってもらえるようにという思いでいつもおります。

《参加者Kさん》

二点ほどあるのですが、まず最初のことは、さっきEさんがおっしゃってました、高梁川の水を引いてほしいという話ですが、最初にその話がきたのは私の方です。ただ浮州岩から藤戸の方は高梁川も児島土地改良区も両方とも水利権をもっている、粒江も水利権があるということです。ただどういうふうにあるかというのは、一筆づつ調べるのなら、農業委員会に行って調べたらわかります。

それと水がこないというのは水路が悪いということも考えられる。県道藤戸連島線の粒江の小学校のちょっと西に小川コーポレーションというのがあってその西に水門があるんです。そこまでは水がたくさんあるんです。そこから下流が草がぼうぼうと生えて、水路が蓋賭けしとるところがあるんです。その件について耕地水路課にちょっと調査してやってくれと、埋もれていたら掃除をせんといけないと話しているんですよ。そういうことで権利をちゃんと持っているんです。一筆づつどういうふうにあるかというのは農業委員会で見えます。

それから県が「死にゆく児島湖」というタイトルの本を出してるんです。それをちょっと前に寄せてほしいと言ったら、そしてそれはどうも手に入らないと。今度は「よみがえれ児島湖」というタイトルの本を出してるんです。それを県の人がちゃんと届けてくれました。児島湖の水位のことで、県北の飛行場の奥の方から雨が降ったものが笹が瀬川を通じて児島湖へ流れてくると。一番に水没が始まるのが、藤戸の地からと書いているんですよ。

それが5、6年前ですか、10月の台風の時には藤戸の方で何箇所か堤防を越えたんです。ちょっと雨が降ると堤防が危うくなることがあって、今は農地にどこへでも家が建ちます。それがあんまり地上げもせずちょっと水が出ると庭先まで水がくる。やっぱり行政がいろんな所の許可をする所で、地上げをしっかりとしていないと危ないという話をしておかないと、農業委員会でもそういう話はよく出るんです。やっぱり各課でそういう話をしっかりとしていないとやっぱり「安かろう悪かろう」で大変なことになるということです。

《市長》

さっきEさんも言ってくくださった小川コーポレーションさんということで、ちょっとその辺りのことをよく調べてみたいと思います。

《参加者Kさん》

問題は上流と下流の方の水利委員の考え方があって、上流は黒石になるんです。黒石と下流の方がよく話をしないと。昔からの慣習的なものがあるので。それは地域で解決すべきことだと思います。

《参加者Lさん》

今日は質問ではなくて市長に御礼を申し上げたいと思います。昨年10月31日に私も天城のふれあいクラブの10周年のときに市長に大変お忙しい中、時間を割いてお越しいただきましたこと、大変嬉しく思います。その御礼を今日申し上げるのが一つ。もうひとつはその祝賀会が市長のホームページにも載っております。そのホームページに載っている分の写真を秘書の方からいただいて私どものホームページに載せさせていただきます。今日はそのことの報告とお礼で今日は終わります。

《市長》

ふれあいクラブのみなさん、地域の活動で活躍してがんばってくださって、Lさん県の善行表彰をもらわれて本当におめでとうございます。これからも地域のために頑張ってください。ちょうど時間となりました。今日は短い時間ではありましたが、みなさまからいろいろ教えていただきまして、たくさんみなさん重要だと思っているとかこういう話があるとかをこれからも市の行政の参考にしながら解決していきたいと思っておりますので、本当に今日はどうもありがとうございました。